

| | | | |
|-------------------------|---|---------|---|
| 1. 科目名 (単位数) | レクリエーションワーク (2単位) | 3. 科目番号 | GEBS2302 GEHL1102 |
| 2. 授業担当教員 | 山口 榮三 | | |
| 4. 授業形態 | 実技を中心に実施し、適宜講義やディスカッションを行う。 | 5. 開講学期 | 秋期 |
| 6. 履修条件・他科目との関係 | レクリエーション関係の授業を履修すると理解が深まる。 | | |
| 7. 講義概要 | これからの社会の課題としてのレクリエーションについて学習する。まず、ライフステージ (幼児・児童・青年・老年・障がい者等) に対応したレクリエーション支援の意義について理解する。そして、多様な場面での、対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術 (個別・グループ・環境) を実践的に身に付け、活用できるようにすることを目的とする。 | | |
| 8. 学習目標 | 本講義を履修することによって以下の項目を達成することを目標とする。 1, 日本レクリエーション協会公認指導者資格レクリエーション・インストラクターを取得するために必要な知識・技術を得る。 2, コミュニケーション・ワークの楽しみ方を体験し、知ることができる。 3, 対象者に合わせたレクリエーション支援を企画し、実践することができる。 4, レクリエーション支援を実践することによって、自分自身からまわりの人へレクリエーションを発信できるようになる。 | | |
| 9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題 | 1. 対象者を設定し、それに応じたレクリエーション・ワーク (以下「レク・ワーク」) を考え、グループおよび個々で支援計画を立案し、実際に発表しそれに基づいて支援の実習を行う。 2. 開講学期期間中に現場指導実習に1回・最低3時間は参加し参加レポートを提出する。 | | |
| 10. 教科書・参考書・教材 | 【教科書】日本レクリエーション協会編著『楽しさをおとした心の元気づくり ～レクリエーション支援の理論と方法～』日本レクリエーション協会、2020。 必要に応じて授業内でプリントを配布する。 | | |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法 | ○成績評価の規準 1. レクリエーションの特質を捉えて、自己への挑戦・前向きな姿勢 (出席状況含む) を評価規準とする。 2. 実技発表への取り組み姿勢と分かりやすい表現・明瞭かつ論理的なレポートを作成できたか。 3. 授業を振り返り、レクリエーションへの考え方や自己への課題を前向きに捉えることができたか。 ○評定の方法 1. 授業への積極的参加態度 50% (出席状況や意見発表を含む) 2. 実技発表・課題レポート 40% 3. 振り返りのレポート 10% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 以上の結果を総合して評価をする。 | | |
| 12. 受講生へのメッセージ | 1. 実技中心の授業のため、身体を動かしやすい服装で参加すること。 2. 欠席・遅刻・早退は原則厳禁とする。やむを得ない場合は、届を提出すること。 3. 分からないことは、授業後やオフィスアワーを利用し、理解を深めること。 企画・運営の際、準備をしっかりと行い、協働意識を高めるように努めること。 | | |
| 13. オフィスアワー | 授業の前後 (その他授業中に指示をする) | | |
| 14. 授業展開及び授業内容 | | | |
| 講義日程 | 授業内容 | 学習課題 | |
| 第1回 | オリエンテーション —授業概要・現場支援実習説明— | 事前学習 | レク・ワークの学習用ノートを準備し、講義へ臨む。 |
| | | 事後学習 | レクリエーション支援の必要性について学習用ノートにまとめる。 |
| 第2回 | コミュニケーション・ワーク1 「信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ」 —あたたかくもてなす意識と配慮— ▶ホスピタリティとは ▶あたたかくもてなす意識を持つこと ▶あたたかくもてなしたいという気持ちが伝わるよう配慮すること —演習: ▶振り返ってみよう ▶感情の表し方をコントロールする — | 事前学習 | テキスト第4章 (pp.58~61) 「信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ」を熟読し、要点を学習用ノートにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 「ホスピタリティとは」について (pp.58~61) の振り返り表を提出する (演習の確認)。 |
| 第3回 | コミュニケーション・ワーク2 「信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ」 ▶気持ちをひとつにするコミュニケーション技術 ▶対象者の気持ちを受け止めているということを伝えるためのコミュニケーション技術 ▶対象者との意思疎通を促進するためのコミュニケーション技術 —演習: ▶居心地よい場面づくり / ▶コミュニケーション技術を用いる / ▶気持ちを伝える配慮を試す— | 事前学習 | テキスト第4章 (pp.58~61) 「ホスピタリティの示し方」を熟読し、要点を学習用ノートにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 「ホスピタリティの示し方」について「演習 (pp.58~61) の振り返り表を提出する (演習の確認)。 |

| | | | |
|------|---|------|---|
| 第4回 | コミュニケーション・ワーク3 —良好な集団づくりの方法・アイスブレイキング— 1. アイスブレイキングのプログラム アイスブレイキングの効果を高める支援技術 | 事前学習 | テキスト第4章 (pp.66～69)「良好な集団づくりの方法・アイスブレイキング」を熟読し、要点を学習用ノートにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 「良好な集団づくりの方法・アイスブレイキング」について「演習(pp.66～69)」の振り返り表を提出する(演習の確認)。 |
| 第5回 | コミュニケーション・ワーク4 「自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法」 1. 楽しむ力を高める目標設定の方法 レクリエーション活動を対象者に合わせアレンジ | 事前学習 | テキスト第4章 (pp.70～69)「アイスブレイキングのプログラミング」を熟読し、要点を学習用ノートにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 「アイスブレイキングのプログラミング」について「演習(pp.70～82)」の振り返り表を提出する(演習の確認)。 |
| 第6回 | レク・ワークの実践1 —ウォークラリーの企画①—下見1回目 | 事前学習 | ウォークラリー資料を熟読し、理解を深める。 |
| | | 事後学習 | 下見の結果をまとめる。 概略ウォークラリーコース図を作成する。 |
| 第7回 | レク・ワークの実践2 —ウォークラリーの企画②—下見2回目 | 事前学習 | ウォークラリー資料を熟読し、コマ図作成の理解を深める。 |
| | | 事後学習 | 概略ウォークラリーコース図(コマ図)を作成する。 |
| 第8回 | レク・ワークの実践3 —ウォークラリーの企画③—計画書・コース図作成 | 事前学習 | ウォークラリー資料を熟読し、コマ図を完成させる。 |
| | | 事後学習 | 「ウォークラリーコマ図作成」についての振り返り表を提出する。 |
| 第9回 | レク・ワークの実践4 —ウォークラリーを体験— | 事前学習 | 「コマ図」を確認する。 |
| | | 事後学習 | 「ウォークラリー」についての振り返り表を提出する(演習の確認)。 |
| 第10回 | レク・ワークの実践5 —レクリエーションスポーツ体験— | 事前学習 | 実施する「レクリエーションスポーツ」資料を熟読する。 |
| | | 事後学習 | 「レクリエーションスポーツ」についての振り返り表を提出する。 |
| 第11回 | レク・ワークの実践6 —身近なものを使用したレクリエーション— | 事前学習 | 実施する「レク・ワーク」資料を熟読する。 |
| | | 事後学習 | 「レクリエーションスポーツ」についての振り返り表を提出する。 |
| 第12回 | レク・ワークの実践7 —グループで、支援するレク財を検討し、指導案を作成する— | 事前学習 | 実施する「レク・ワーク」の「レク財」を準備する。 |
| | | 事後学習 | 「レク・ワークの実践7」についての振り返り表を提出する。 |
| 第13回 | グループごとのレク・ワークの支援実践① —3グループが支援実践を行う— | 事前学習 | 実施する「レク・ワーク」の「レク財」を準備する。 |
| | | 事後学習 | 「レク・ワークの支援実践」についての振り返り表を提出する。 |
| 第14回 | グループごとのレク・ワークの支援実践② —3グループの半数が支援実践を行う— | 事前学習 | 実施する「レク・ワーク」の「レク財」を準備する。 |
| | | 事後学習 | レク・ワークの支援実践」についての振り返り表を提出する。 |
| 第15回 | まとめと評価 | 事前学習 | 学習用ノートを振り返り、これまでの学びと考察を1ページにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 今後のレク・ワークに向けた自己課題を学習用ノートにまとめ、提出する。 |